

火星の大接近



今年の10月6日に「火星の最接近」がありました。地球や火星などの惑星はそれぞれ違う軌道や周期で太陽の周りを公転しています。この軌道や周期の違いにより、惑星たちは互いに近づいたり、遠ざかったりします。地球と火星は2年2ヶ月ごとに最接近しています。この前後数週間は地球から火星はよく見えますが、今回の最接近では11月上旬までマイナス2等以上の明るさで輝き、大きさも最接近以外の時と比べると9倍の大きさで見えるそうです。また、最接近の時よりも、最接近を過ぎた時期の方が宵の空で観察しやすくなります。

しばらくは日没後、東の空に赤く輝く火星が肉眼で見ることができます。最近では新型コロナウイルスのミクロな話題が多いですが、時には雄大な空の世界に視線を移してみませんか？



ナイチンゲール生誕 200 年に思う



今年は、ナイチンゲール生誕 200 年の年にあたります。

ナイチンゲールといえば、クリミア戦争での献身的な看護から「クリミアの天使」と呼ばれた「看護師」というイメージが強いですが、彼女の凄いところは、統計学、衛生学、病院建築、教育学など様々な分野の知識を駆使し、世の中を変えていったことにあると思います。

クリミア戦地での犠牲者のうち、死因のトップは感染症での死亡でした。その中で、彼女は、救護所のトイレや部屋の掃除をおこない清潔を保ち、常に新しい空気を取り入れる換気をし、負傷兵同士の距離を離すなどの対策をおこなったところ兵の死亡率は格段に減少しました。さらに、彼女は終戦後に負傷兵の死因や対策の効果などを統計学を駆使して論文を発表し国民の衛生環境の向上に大きく寄与しています。

驚くことに、クリミア戦争のあった 1850 年代には細菌やウィルスは発見されていません。細菌などの存在も分からず、現代のコロナ対策の基本のような対策がなぜ実行できたのでしょうか？その理由は、彼女の著書「看護覚え書」のなかの《観察と経験を抜きにしては、わたしたちは健康の原則について何も知りえない。観察と経験以外何ものも、わたしたちに、健康な状態を保持し、あるいは健康な状態に戻す術を教えるものはない》という考え方にあります。

患者さんをよく観察して小さな変化に気付き、対応していく。それを経験値として、次の患者さんのために活かす。これは、経験医学ともいわれる東洋医学にも通じるものだと思います。鍼灸治療も、科学や医学が発達する以前から、工夫と失敗を繰り返して、それを経験としツボや治療法を確立してきました。

医学知識や検査・治療技術が向上してきた現代において、改めて、「観察と経験」の大切さを忘れてはならないことをナイチンゲール生誕 200 年という年に肝に銘じて患者さんと向き合っていきたいです。

【11月の休診日】

1日(日) 3日(祝) 4日(水)
8日(日) 15日(日) 20日(金)
22日(日) 23日(祝) 29日(日)

おしらせ

今月は日曜・祝日に加え、4日(水)、20日(金)もお休みをいただき、センターの施設整備を行います。皆様にはご不便をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

前田 茂光

(まえだ しげみつ)
出身地：三重県

はり師・きゅう師
あん摩マッサージ指圧師
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

